

2024年度日本陶磁協会賞・金賞受賞記念 川端健太郎・中里 隆・林 康夫 展

2025年10月20日(月)～10月25日(土) 午前11時～午後6時

会場 壺中居

東京都中央区日本橋3-8-5 Tel 03-3271-1835

日本橋高島屋本館南側向かい 地下鉄銀座線・東西線 日本橋駅、B1出口より徒歩2分

主催 公益社団法人日本陶磁協会

協力 ギャラリー こちゅうきょ

内容に関するお問い合わせ Tel 03-3292-7124 [公益社団法人 日本陶磁協会]

本展は、その年の最も優秀な陶芸分野の作家に対して贈られる日本陶磁協会賞と、陶芸界に大きな足跡を残したベテラン作家に贈られる同金賞の受賞を記念するものです。

日本陶磁協会賞と金賞の授与は、昭和29年(1954)度より始まり、毎年、研究者・ギャラリストほか現代陶芸を識る推薦委員が候補者を挙げ、その上位より選考委員が選出しています。

『日本陶磁協会賞金賞』

林 康夫 [はやし・やすお]

- 1928年 ○ 京焼の林沐雨の次男として、京都市に生まれる
- 1947年 ○ 「四耕会」結成に参加、全展に出品
- 1950年 ○ 現代日本陶芸展に出品(フランス・チェルヌスキー美術館)
- 1962年 ○ 「走泥社」に参加(1977年に退会)
- 1972年 ○ 大阪芸術大学教授就任(1998年まで)
ファエンツァ国際現代陶芸展グランプリ(イタリア)
- 1973年 ○ カルガリー国際陶芸展グランプリ(カナダ)
- 1974年 ○ ヴァロリス国際陶芸展グランプリ・ド・ヌール(フランス)
- 1987年 ○ オビドス・ピエンナーレ グランプリ(ポルトガル)
- 1998年 ○ 京都市文化功労者表彰
- 2021年 ○ 京都府文化賞 特別功労賞

● 受賞理由

前衛陶芸の草創期から現代に至るまで、土による造形表現の可能性に挑戦し続けてきた足跡と、いまなお表現者として制作する姿勢が評価されました。

廃屋' 25-14



写真：今村祐司

【日本陶磁協会賞】

川端健太郎 [かわばた・けんたろう]

- 1976年 ○ 埼玉県に生まれる
- 1998年 ○ 東京デザイナー学院陶器科卒業
- 2000年 ○ 多治見市陶磁器意匠研究所修了
- 2001年 ○ 織部の心作陶展 大賞
- 2002年 ○ 益子陶芸展 審査員特別賞
- 2004年 ○ 益子陶芸展 加守田章二賞
- 2007年 ○ パラミタ陶芸大賞展 大賞

● 受賞理由

土の可塑性と釉の源であるガラスや鉄、銅の特質を活かした独自の表現が造形的な作品と器に発揮され、常に挑戦し続けていることが評価されました。

Mumbling, 2024



©川端健太郎 & Nonaka-Hill ※非売・参考作品

【日本陶磁協会賞金賞】

中里 隆 [なかさと・たかし]

- 1937年 ○ 十二代中里太郎右衛門（無庵）の五男として、佐賀県唐津に生まれる
- 1961年 ○ 現代日本陶芸展にて、陶彫「双魚」第一席受賞
- 1967年 ○ アメリカ、欧州、中近東、東南アジア、韓国等を1年間旅行
- 1971年 ○ 種子島へ渡島、西之表市古園に築窯し種子島焼を始める
- 1974年 ○ 唐津市に窯を築く。隆太窯の名は、小山富士夫による
- 1985年 ○ 現代陶芸選抜展賞（1984年度日本陶磁協会賞）
- 1996年 ○ デンマーク・ロイヤルコペンハーゲン社、米国コロラド州アンダーソンランチアートセンターにてピジティングアーティストとして作陶。以降、国内外で作陶

● 受賞理由

巧みなロクロの技を土台にしたうつわを中心とした作品と、国内外で積極的に制作を行い、新しい陶芸家像をつくれた点が評価されました。

唐津南蛮壺



写真：菊池陽一郎